

学 年

第2学年（中学校2年）

テーマ

環境と人間の生き方を学ぶ

■ 学年を通しての学習の目標・ねらい

2年生で実施する「L I F E II 環境と人間の生き方を学ぶ」では、「L I F E I 学び方を学ぶ」における調べ方、研究の方法を生かして「環境と人間の生き方」についての学習を進める中から、「生きる力としての問題解決能力」に焦点を当て、「問題意識をきちんと持つことができる生徒」を育成することを目指す。

「自分で問題を発見」して「解決を目指して取り組む」ためには、テーマとなる事項を調べ、まとめた上で、その知識を基に判断し、「疑問」を抱くことが出発点となる。これまでの教科学習では、教科書に対する活字信仰からか、教科書に書いてあることや教師の言ったことは「真実」として受け入れてしまう傾向が感じられる。しかしこのような知識を権威化した中からは疑問や問題意識は生まれにくいのではないだろうか。そこで、L I F E IIでは、生徒が自分の手で環境を直接観測したり、人間の健康について測定したり、五感を使って現在の状況をとらえる過程で「疑問を発見する」ことにポイントを置く。自らの観測や体験は疑問の宝庫となるのではないかと期待する。

生徒には「疑問」を「疑問として明らかにする」までの過程を意識させ、さらに探求活動を通して「疑問を解決するための道筋をさぐる」体験を積ませたい。

活動は3～4人のグループ単位で行い、活動の中で互いのコミュニケーションを取ることを求め、中間発表のような形で自分たちの考えを的確にまとめ表現する活動を盛り込みたい。また、自分の生活を見つめ、自らの判断を基に活動を計画し、自分の健康を守るための行動や地球環境の中でよりよく生きる姿勢について考えさせたい。

■ 学年を通しての評価の観点

2年生のL I F E IIにおける目標をもとに、教師の側から期待する「育まれる能力」を以下の4つのようにまとめた。

- (1). 直接体験をもとに、疑問を抱き、新たな課題を発見する能力
- (2). 課題に対して、さまざまな知識や技能を総合化して問題を解決する能力
- (3). グループ研究を円滑に進め、まとめるためのコミュニケーション能力
- (4). 環境問題を総合的に判断し行動する能力

L I F E IIでは、この4つの能力を中心に、生徒の成長を評価していきたいと考えている。これに従って、以下の4つの評価の観点を定めた。

< 評価の観点 >

- (1). 直接体験をもとに、疑問を抱き、新たな課題を発見することができたか
- (2). 課題に対して、さまざまな知識や技能を総合化して問題を解決することができたか
- (3). グループでのコミュニケーションを持ち、研究を円滑に進め、まとめることができたか
- (4). 環境や人間について、問題を総合的に判断し行動することができたか

■ 学年を通しての評価の方法

具体的な評価活動は、各単元において、以下のような方法により行っていく。

- (1). 教師による活動の評価（活動の過程の観察や、成果物など）
- (2). ワークシートや生徒の活動の記録（ポートフォリオ）を活用した評価
- (3). 生徒による自己評価シートや中間発表などにおける相互評価



生ゴミから堆肥をつくる実験



紫外線の測定

L I F E IIにおける評価に関する基本的な考え方を下の図に示す。

特に、L I F E IIでは「自ら課題を見付け、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること」に重点を置くため、生徒自らが①どのようなことができたか、②どのように変わったか、そして、③どのような能力を身に付けることができたかを、自ら明らかにすることができるように、自ら振り返ることができるように整理しながら学習を進めていくように考えている。具体的にはこうしたことを念頭に置いて、生徒の活動の記録としてさまざまな資料を学習や思考の過程が残るような形でファイルにまとめさせたり、また単元や学習内容に沿った形で折を見て「自己評価シート」に記入させることを行っている。

<基本的な考え方>

学習のねらいや目標を明らかにする。

(どのような能力を育もうとするのか?)



期待される能力を育むことができたか。

<総合的な学習L I F E IIに求められる評価>

「生きる力」を育む、新しい評価活動：

自己学習力あるいは問題解決力を高めるとは？

- ・「メタ認知」を育てる評価方法
- ・生徒の自己成長のための評価

自己評価、相互評価、ポートフォリオの活用、教師のサゼッション

・生徒が自分の活動を振り返り、自分の足跡や学習したことの意義を知る。
また、自ら振り返ることで、あらためて残された課題に気づき学習を発展させる。